川崎市育成会手をむすぶ親の会　幸支部

幸通信No.20

発行日　平成３０年１１月１日

「広報紙育成会かわさき 191 号」でもお知らせしましたように、第５２回手をつなぐ育成会関東甲信越大会川崎大会も、皆様のご協力のもと、無事に開催することができました。今後は、この大会で得たものを幸支部の活動に反映していきたいと思います。

今年も、あと２か月足らずになりました。引き続き、よろしくお願いいたします。

（幸支部役員一同）

平成３０年度　第１６回川崎市幸区社会福祉大会

９月２５日(火)幸市民館大ホールにて、今年度の幸区社会福祉大会が開催されました。

この大会は、社会福祉法人川崎市幸区社会福祉協議会の主催で、「幸区民と社会福祉関係者が一堂に会して、安心して暮らすことのできる地域社会づくりについて、共に考え、活動を充実させていく意を新たにするとともに、日頃より地域福祉向上に貢献されている方々の功績を称える」（開催要項より）という趣旨のもとに行われており、今回で第１６回になります。

第１部は、顕彰式典で、地域福祉活動の進展に大きく寄与された方々に、表彰状、感謝状が贈られ、今回も数多くの方々が、壇上にあがり表彰されました。第２部は、記念映画「パートナーズ」の上映がありました。この映画は、一頭の盲導犬とその訓練士の成長と絆を描いたドラマで、村田雄浩さんや川上麻衣子さんなど有名な俳優も多数出演されており、たくさんの方々が来場されていました。

また、会場のロビーでは、例年通り交流事業として幸区内の障害者施設・地域作業所の、製品の販売がありました。今年は、参加施設・作業所の紹介もリーフレットに載せられていて、地域の方にもより身近に感じていただけたのでは、と思います。　（髙山　君子）

「相談支援」と「モニタリング」

今回は、前回お知らせした「相談支援と地域づくり」というテーマの中の「サービス等利用計画」の『モニタリング』についてお知らせしたいと思います。

前回は、「サービス等利用計画案」の作成時に、本当は利用したいのに実際には計画に盛り込めなかった事例を集めて、なぜ、利用したい人の思いに応えられなかったのか、その地域には何が足りていないのかといったことの原因をきちんと分析し、それを埋めていくための検討と具現化をすることが「地域づくり」につながるのではないかということと、そのために、私は、「相談」を大事にしていきたいと書いたように記憶しています。

川崎市に、地域相談支援センター（指定特定相談支援事業者）の計画相談支援事業のサービス利用支援（障害福祉サービス等の支給決定前の「サービス等利用計画案」の作成と、支給決定後の「サービス等利用計画」の作成）に、希望したのに実際には計画に盛り込まれなかった事例を集めるという役割も加え、そこで集まった事例を基幹相談支援センターが吸い上げて、達成できなかった理由をきちんと突き詰めると同時に、不足している資源を浮かび上がらせ、それを地域の課題として各区の自立支援協議会で話し合い、欠けているものを埋める作業をするという体制ができたらよいのにと、私は思っています。なぜなら、そういった取り組みは「地域づくり」の歯車になり、少子高齢、人口減少になっていく地域を支えていく人材発掘、人材育成になるのでは？と思うからです。

１，『モニタリング』って？

では、『モニタリング』が、どの相談支援の中にあるのか、ここでおさらいしてみたいと思います。相談支援事業には、「計画相談支援事業」、「地域相談支援事業」、「障害児相談支援事業」の３つがあります。今回は、「計画相談支援事業」の事業内容（支援）をおさらいします。

「計画相談支援事業」には、「サービス利用支援」と「継続サービス利用支援」があります。前段でも書きましたが、

・**「サービス利用支援」**は、障害福祉サービス等の利用を申請するとき、どのようなサービスを使って生活を組み立てるかを障害のある本人やそのご家族と一緒に考え、支給決定前に「サービス等利用計画案」を作成し、支給決定後に「サービス等利用計画」を作成する支援です。そして、

・**「継続サービス利用支援」**の中に、支給されたサービスが障害のある本人にとってよい結果となっているのか、もう少し違ったサービスも取り入れた方がよいのかなど、チェックする作業がありますが、それが**『モニタリング』**です。６か月ごとに行う場合が多いようです。

２，では、『モニタリング』は、どのようにするのがよいの？

《Ａさんの場合》

Ａさんは、医療的ケアが必要な方です。ですから、関わっている人も多く、チームでの支援がとても重要です。Ａさんの体調を管理して気持ちのよい毎日を送ってもらうには、小さな変化にもチームで対応する必要があります。ケア会議には、ご本人はもちろん、ご家族、サービス提供事業者（生活介護事業）、訪問看護やヘルパーサービス事業所の担当者、訪問リハビリテーションの担当者、区の障害者支援係の担当者、区の基幹相談支援センターの担当者が集まります。そして、誰かが感じた課題を皆で共有し、対応を考え、後日、その対応の結果を連絡して確認し合うという形が取られています。

このように、障害のある人に関わってくれている人達全員が集まり、課題の共有やこれからの見通しについて、相談専門支援員を中心に課題の共有、対応、結果の確認をして、また、次の段階へ進んでいくという形がとれると、親としては、安心できるように思います。

３，『モニタリング』のこれから

平成３０年度の障害福祉サービス等報酬改定では、『モニタリング』を実施する標準期間の見直しも行われました。厚生労働省から出された「計画相談支援等に係る平成３０年度報酬改定の内容等及び地域の相談支援体制の充実・強化に向けた取組について」の中の

第四　地域の相談支援体制のさらなる充実・強化を図るための今後の各自治体における取組み事項等について

２　各自治体において今後取り組むべき事項について

（２）適切なモニタリング等の推進について（抜粋）　では、

「質の高い相談支援を提供するためには、継続的かつ定期的に利用者との関わりを持つことで、利用者との信頼関係を醸成することが必要であり、そのためにはモニタリングを頻回に実施することが求められる。」とあります。また、

２）サービス提供事業所から相談支援事業所へのサービス利用状況の報告について（抜粋）では、

「可能な限りモニタリング期間を短く設定した場合であっても、相談支援専門員は利用者の状況を月に１回程度しか把握する機会がなく、日々サービスを提供しているサービス提供事業所の職員の方がより頻繁に利用者と対面し、利用者の状態を把握していることから、相談支援専門員が必要に応じた支援を随時実施できるよう、サービス提供事業所がサービス利用状況を相談支援に定期的に報告する仕組みを構築することが望ましい。」というように、サービス提供事業所（生活介護や就労支援などを提供している事業所）と相談支援専門員の連携を望むと示されています。

サービス提供事業所で作成する「個別支援計画」と、相談支援センターで作成する「サービス等利用計画」が、同じ方向を向いて連携していけばと、思います。

（仁尾　智都子）

幸のほっと♥スポット　File16　矢上川（やがみがわ）

鶴見川との合流点近く

今回は、川崎の西南部を流れる矢上川を紹介します。と言っても、幸区民にはすでにお馴染みですね。

改めてPC等で矢上川を調べてみますと、源は川崎市宮前区水沢で、幸区南加瀬と横浜市港北区日吉の境界から鶴見川に合流しています。私は、源流はもっと上流かと思っていたのでちょっとびっくりしました。矢上川は、まさに「川崎の川」なのですね。

都会の川にもかかわらず、矢上川には植物や生き物がたくさんいるようです。川崎市の公式ウェブサイトによりますと、全長約14Kmの矢上川に生息する鳥は60種類以上、魚はボラやコイの他にハゼ、ドジョウ、うなぎ、アユ、メダカまでいるそうです。高度成長期に一時期水質が悪化して、生き物が激減したのですが、その後、下水道の整備が進んで水質が改善し、生き物たちが戻ってきたとのことです。

川沿いの加瀬水処理センター では、高津区の一部と幸区・中原区から運ばれる汚水を生物化学的に浄水して、きれいになった水を矢上川へ放流しています。こういう施設のおかげで、川がよみがえったのでしょうね。

水門

加瀬水処理センターの上部には「加瀬ふれあいの広場」があります。過密化した都市の防災性を向上させるためには、オープンスペースの確保と有効利用が重要なポイントで、下水道処理場の貴重な空間や水を災害時にも有効に活用することで、安全で快適なまちづくりの実現を目指し、全国で初めて処理場上部にさまざまな防災設備を備えた防災避難広場として整備されたそうです。平常時は多目的広場ですが、災害時には防災樹林、扇形水幕、放水銃、ゲートシャワー等を備えた緊急避難場所になります。スロープが設置されていますので、車いすの方も安全に避難できるそうです。

さて、今年は川崎にも、何度か台風が接近しました。特に9月末の超強力台風24号は、今までに経験したことのないような暴風で、まだ記憶に新しいところです。実際に幸区にも避難所が設置されましたね。その24号の影響で塩害が発生して、電車が架線火災で止まったり、植物が枯れたりしています。私は、塩害というのは臨海部の話かと思っていましたが、２週間ほど経って、幸区内でも塩害と思われる光景をたくさん見かけました。海側の葉だけ紅葉することなく枯れて散ってしまった街路樹や、茶色になってしまった花壇の花。驚くほど身近な場所にも塩害は発生して、まさに大自然の驚異を実感しました。

加瀬水処理センター

それでも、長い年月をかけて成長した樹木の生命力で、来年も涼やかな若葉の木陰で私たちをほっとさせてくれることを願っています。　（髙山　君子）